

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：32506

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02460

研究課題名（和文）ナラティブ交換の対話能力への貢献：オンライン教育による実証研究

研究課題名（英文）How does narrative exchange improve conversational competence?: Empirical research findings from collaborative online international education.

研究代表者

山下 美樹（Yamashita, Miki）

麗澤大学・国際学部・教授

研究者番号：10771420

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000 円

研究成果の概要（和文）：ナラティブ交換の潜在的可能性に注目し、ナラティブ交換の導入による参加学生間の相互尊重の構築と対話能力の向上への影響について考察した。最終年度は研究協力者（ポートランド州立大学教授）と共著でLeaderful Classroom Pedagogy Through an Interdisciplinary Lens: Merging Theory with Practice（共著，11章分担）（Springer Nature, November 28, 2023）を出版した。学会報告はスイス、インド、米国の国際会議と国内学会で研究報告した。現在は米国のSUNYとCOIL共同研究を実施中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では海外オンライン連携学習において、能動的に他者と関わり相互尊重を働きかける人ほど質の高い対話ができていること、そして、参画者個々の課題が全体に影響するため共同者間の互恵的パートナーシップの形成が重要であることが明らかになった。そこでナラティブ交換はその中核を担うという結論に至った。また、本研究で依拠したグローバル・エージェンシー育成のための教育学的・認識論的モデル（Cress, C. M. & Van Cleave, T. J., 2020）がCOIL実践と社会変革に有効的であることが実証された。そこに学術的意義と社会的意義が認められる。参画者間の共同力の向上は互恵性の向上に繋がる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we focused on the impact of introducing narrative exchange on building mutual respect among participating students and improving their ability to interact with each other. In the final year, I co-authored "Leaderful Classroom Pedagogy Through an Interdisciplinary Lens: Merging Theory with Practice" with a research collaborator from Portland State University. The book, with 11 chapters, was published by Springer Nature on November 28, 2023. In 2023, I also presented conference reports at international and national conferences in Switzerland, India, the U.S., and Japan. Currently, I am conducting a COIL collaboration with SUNY, USA.

研究分野：教育学

キーワード：オンライン国際連携学習 サービス・ラーニング ナラティブ交換 共感力 互恵性 関係性構築 教授法

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1．研究開始当初の背景

遠隔教育は 1990 年代に欧米で普及し始め、COIL(オンライン国際連携学習教育)が 2000 年代初期にニューヨーク州立大学（SUNY）で始動され、2014 年にはその世界展開が始まった。その喫緊の課題として参加者の英語での対話能力の向上促進が挙げられている。SNS の爆発的な普及の根本的要因に他者との自由なナラティブの交換があり、それは利用者にとって大きな対話支援となっている。そこで本研究では、対話能力の向上のための施策として語学力よりも学習者の能動性の向上を促進するナラティブ交換の可能性に注目した。さらに、そのナラティブ効果の概念化を目指す。

2．研究の目的

本研究では COIL というヴァーチャル空間で文化的影響を超えナラティブの交換がいかに情緒システムを起点に認知と行動に作用し、それが感情的交流の基盤となり COIL 参加者の能動的・自発的参画を促す起点となるだろうかという点に着目し、「能動的に他者と関わり相互尊重を働きかける人ほど質の高い対話ができている」という作業仮説を基盤に、COIL の教授法としてナラティブ交換を導入することで、参加学生間の相互尊重の構築と対話能力の向上に、どのような影響が与えられるかを考察した。

3．研究の方法

本 COIL では日米の授業間でサービス・ラーニング（S-L）活動を実施した。学生のリーダーシップとグローバルな主体性の促進を目指し、参加型ケーススタディを実施した。その実践の中でナラティブ交換を導入した。その結果ナラティブ交換の影響は、学生のリーダーシップとグローバルな主体性の促進がみられた。つまり、ナラティブ交換は、学生の能動的・自発的参画を促す起点となることが明らかになった（山下, 2021, 2022）。その影響は活動テーマである「民主的公平性とユニバーサルデザインに焦点を当てた S-L 活動」の中で醸成された。その 4 年間の日米間の COIL 共同（2019～2022 年、n=60）から量的・質的データを収集し分析した。

4．研究成果

本研究は米国のパートナー校と本学のパートナーシップの維持と拡大を視野におき、2019 から 2022 の過去 4 年間、毎年 2 学期にオンライン（同期型）で S-L を実施してきた。S-L は多様性、包括性、公正性を重視した地域貢献型の体験学習であり、学生、教員、活動先コミュニティパートナーが互恵性をもって協働し、学術的専門知識を社会問題の解決に応用する教育手法である。それは協働的・参加的な学習環境の一部として、社会的・関係的・動的な相互作用を重視する一人ひとりがリーダーとなるリーダーフルな学びの環境の中で醸成されたことが明らかになった。具体的には (1)包括的な学習コミュニティの形成、(2)重層的な学生間・教員間のナラティブ交換による省察を通じた批判的意識の醸成、(3)互恵性のための協働的变化に焦点を当てた学生と活動先コミュニティパートナーとのナラティブ交換、この 3 点が、参画者間の共通の目的意識、相互理解、リーダーシップと発言力を促す環境作りの COIL 実践システムとして寄与することである（山下, 2024, Yamashita & Cress, 2024）。

COILS-L の実践研究過程において、活動テーマの選択や学生の認知と情緒的育成を促す教育手法の意図的な導入、活動先コミュニティパートナーも含む活動参画者間の互惠的パートナーシップ形成が重要である。そのためには、協働する教員間においても、目的の共有、相互理解、積極的協働が重要であり、ナラティブ交換の潜在的可能性がそこで発揮されることが期待できる。COIL は海外と繋がり共修するため、その共同期間が長丁場になればなるほど、個々の参画者の個人的な問題や社会情勢の変化が、その共同に影響してくる。つまり、地域連携活動としての COIL では、一つの協同体として共修するため、参画者の個々の課題が全体に影響する。したがってその学びの視点を常にプロセスにおき、参画者間でナラティブ交換を重ねる必要がある。さもないと、互惠的パートナーシップの形成が困難になるどころか、プロジェクト継続を断念することにもなりかねない。「心のバリアフリー」をその参画者間の共通目的の一つとして据えることで、参画者間の建設的な変容体験が期待できる。本研究ではナラティブ効果の概念化を目指し、ヴァーチャル空間における共修という文脈を包括的に捉え研究を継続する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 山下美樹	4. 巻 105
2. 論文標題 オンライン国際連携学習（COIL）における試み： ナラティブ交換とエンパシー概念の共有の有効性について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 麗澤大学紀要	6. 最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山下美樹	4. 巻 105
2. 論文標題 オンライン国際連携学習（COIL）における試み： ナラティブ交換とエンパシー概念の共有の有効性について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 麗澤大学紀要	6. 最初と最後の頁 78-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山下美樹	4. 巻 101
2. 論文標題 オンライン国際連携学修（COIL）の実践と考察：海外パートナー校の大学院生による学習支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 麗澤大学紀要	6. 最初と最後の頁 105-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山下美樹	4. 巻 107
2. 論文標題 COIL（オンライン国際連携学習）サービス・ラーニング における実践と成果の振り返り	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 麗澤大学紀要	6. 最初と最後の頁 88-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 山下美樹
2. 発表標題 COIL / バーチャルエクスチェンジコースにおける公正性と互惠性のための方策
3. 学会等名 異文化コミュニケーション学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Cress, C & Yamashita, M.
2. 発表標題 Strategies for Equity & Reciprocity in On-Line COIL/Virtual Exchange Courses
3. 学会等名 POD conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamashita, M.
2. 発表標題 Narrative Exchange and Empathy in Collaborative Online International Learning (COIL).
3. 学会等名 IAIR Biennial Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山下美樹
2. 発表標題 オンライン国際連携学習 (COIL) の教授法 : バルネラビリティの共有がパートナーシップの形成に及ぼす影響
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2022年

1．発表者名 山下美樹
2．発表標題 足元の課題をテーマとしたCOIL型社会貢献活動 ユニバーサルデザイン
3．学会等名 日本サービス・ラーニングネットワーク（JSLN）（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 山下美樹
2．発表標題 COIL の実践報告 双方が対等な立場で学修を可能にするための方策
3．学会等名 異文化間教育学会
4．発表年 2021年

1．発表者名 山下美樹
2．発表標題 オンライン国際連携学習教育実践報告
3．学会等名 異文化間教育学会
4．発表年 2020年

1．発表者名 Miki Yamashita
2．発表標題 Reciprocity Collaborative Online Service Learning: A Case Study Baed on Relational Culture Theory
3．学会等名 IAIR Biennial Conference 2023（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Miki Yamashita
2．発表標題 The Role of Narrative Exchange and Empathy in Service-Learning: Pedagogy and Student Engagement in a Collaborative Online International Learning Environment
3．学会等名 The 9th Asia-Pacific Regional Conference on Service-Learning (国際学会)
4．発表年 2023年

1．発表者名 山下美樹
2．発表標題 オンライン海外大学連携型（COIL）サービス・ラーニング（S-L）協働学習における互恵性:関係性文化理論からの考察
3．学会等名 異文化間教育学会
4．発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1．著者名 Miki Yamashita, Christine Cress	4．発行年 2023年
2．出版社 Springer Nature	5．総ページ数 18
3．書名 Chapter 11 Leadership and Global Agency Development in Collaborative Online International Learning: Faculty Leaderful Strategies for Pedagogical Preparation, and Progression in Supporting Students’ Learning Outcomes	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	クレス クリスティーン (Cress Christine)	ポートランド州立大学	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Portland State University			